

3. 真皮内母斑 intradermal nevus ★

母斑細胞がほぼ真皮に局限する (図 20.4). 深部に行くほどメラニン産生能が低下し, サイコロ状からやや小型で紡錘形, Schwann 細胞に類似した外観に変化する. 体幹に生じた有茎性・乳頭状表面のものを Unna 色素性母斑^{ウンナ}, 顔面に好発し半球状, 軟毛を伴うものを Miescher 母斑^{ミーシャー}という.

特殊型

1. 巨大先天性色素性母斑 giant congenital melanocytic nevus ★

一般的に直径 20 cm を越えるものをいう. 出生時から存在し, ときに黒色の剛毛を伴う (獣皮様母斑, 図 20.5). 悪性黒色腫のリスクがあり, まれに中枢神経症状を伴う (神経皮膚黒色症, p.402 参照).

2. 分離母斑 divided nevus

主に眼瞼^{がんけん}の上下に分布する中型の母斑細胞母斑. 目を閉じると一つの病変に見えるが眼を開けると眼裂により 2 つに分割される. ほとんどが出生時から存在し, 黒褐色を呈する (図 20.6).

3. 爪甲黒色線条型母斑 melanonychia striata type nevus

爪甲に縦走する黒色線条をきたす (図 20.7). 19 章 p.372 も参照. 大部分は爪母に生じた母斑細胞母斑であるが, 線条が爪^{ハフチンソン}の外にまで及ぶ場合は悪性黒色腫の可能性が高い (Hutchinson 徴候).

4. Spitz 母斑 Spitz nevus

同義語: 若年性黒色腫 (juvenile melanoma), spindle and epithelioid cell nevus

Essence

- 青少年に好発する母斑細胞母斑の一種.
- 頭頸部などに突然出現, 比較的急速に直径 1 cm 程度まで拡大. 周囲が紅色調を呈する場合もある.
- 臨床的, 病理組織学的に悪性黒色腫に類似することもある

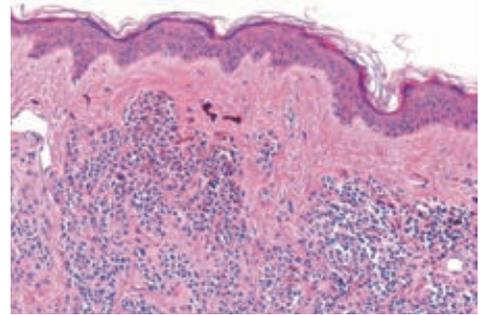


図 20.4 母斑細胞母斑の病理組織像



図 20.5 巨大先天性母斑細胞母斑 (giant congenital melanocytic nevus)



図 20.6 分離母斑 (divided nevus)



図 20.7 爪甲黒色線条型母斑 (melanonychia striata type nevus)



図 20.8 Spitz 母斑 (Spitz nevus)

a～d, f: 臨床像. e: dのダーモスコピー所見. g: fのダーモスコピー所見.

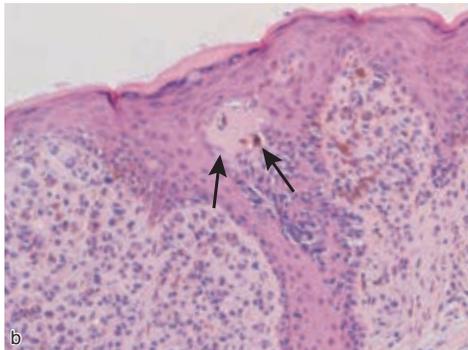
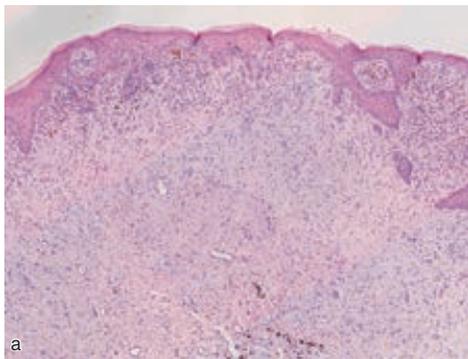


図 20.9 Spitz 母斑の病理組織像

a: 弱拡大像. b: 強拡大像. エオジンに好染される Kamino 小体 (矢印) を認める.

が、良性疾患であり自然退縮することもある。

症状

小児に生じることが多いが、青壮年に発症することもある。数 mm～2 cm 大くらいまでの半球状および淡紅色、赤褐色～黒色の小結節で、通常は単発性である (図 20.8)。主に頭頸部に突然出現し拡大する。ときに色素沈着を伴って黒褐色の病像を呈し (Reed 母斑^{リード})、悪性黒色腫との鑑別が困難である。しかし、本症は良性疾患であり一定以上の拡大や浸潤をきたすことはない。

病理所見・診断

複合母斑の形態をとるが、紡錘状、類上皮細胞状、異型細胞状、多核巨細胞状といった多様な形態の母斑細胞が混在する。真皮の浮腫、毛細血管拡張、炎症細胞浸潤を認めることもある。これらの所見は悪性黒色腫と類似しており、しばしば鑑別が困難である。本症では母斑細胞母斑の基本的構造が保たれており、構築が対称性、逆三角形で深部に行くほど細胞が小型化する。また、母斑細胞内の胞巣内に Kamino 小体 (Kamino body) と呼ばれるエオジン好染、PAS 染色陽性の均質な無構造物質を約 70%に伴い診断の補助となる (図 20.9)。ダーモスコピーでは辺縁に特徴的な模様 (starburst pattern) がみられ、診断に有用となる (3章 p.55 参照)。

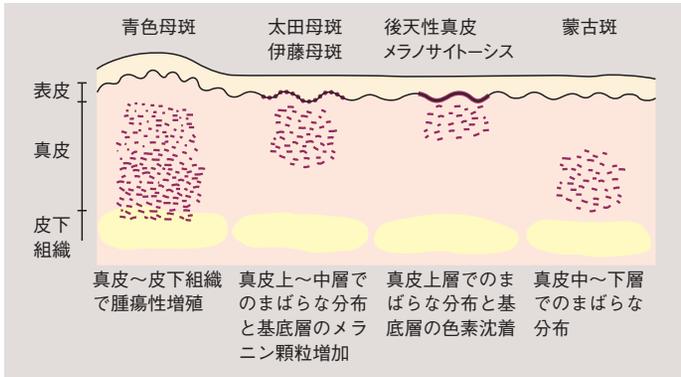


図 20.10 真皮メラノサイト系母斑の分類とメラノサイトの分布様式

治療

外科的切除。悪性化はないが、悪性黒色腫との鑑別を慎重に行う必要がある。

5. Clark 母斑 Clark nevus

同義語：異型母斑 (dysplastic nevus), 非典型母斑 (atypical nevus)

思春期前後から生じる。直径 5 mm 以上の斑状ないし扁平にわずかに隆起した母斑細胞母斑であるが、①不整形、②境界不明瞭、③濃淡差のある色調、のうち 2 つ以上の特徴を有するものをいう。基本的には良性疾患であり、加齢とともに消退する。病理組織学的に複合母斑ないし境界母斑の所見を呈する。悪性黒色腫との鑑別および発症の可能性があり、ダーモスコピーを用いた経過観察が必要である。多発性に Clark 母斑を生じ家系内にも同様の臨床像を呈する場合には悪性黒色腫のリスクが高く、異型母斑症候群 (dysplastic nevus syndrome, 常染色体優性遺伝) と呼ばれる。

▶ Sutton 母斑 → 16 章 p.307 参照。

b. 真皮メラノサイト系母斑 dermal melanocytic nevi

真皮メラノサイトが増殖する疾患群としては、青色母斑、蒙古斑や太田母斑などがあり (図 20.1), 疾患によって細胞の分布と臨床像が異なる (図 20.10)。

20



図 20.11 青色母斑 (blue nevus)